

豊中市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンおよび総合戦略に対する意見集

本意見集は、豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会の審議経過において、人口ビジョンの推計方法や総合戦略の考え方、基本目標など、各委員から出された意見や提案を取りまとめたものであります。

今後、総合戦略の推進と改善を図る上において、本意見集を活用するとともに、その反映に努められることを要望します。

平成 27 年(2015 年)8 月 28 日

豊中市まち・ひと・しごと
創生総合戦略策定委員会
会長 加藤 晃規

平成27年度 豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会（意見集）

項目	No.	内容	意見
豊中市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンについて	1	現状把握について	現状と課題を整理するのは、あくまでもどのような総合戦略をだすかというためのものである。
	2		豊中市に住む方がどのような方なのかのわかると、定住層、賃貸層、どういった層に来てもらうか、どう政策をうつかなどのねらいがみえてくるのではないかと。
	3		新築住宅の竣工状況について、分譲と賃貸の割合を把握できると、求められているものがわかるのではないかと。
	4		定住の動きだけでなく、通勤通学でどのように人が動いているのか、地域別で把握できると、働く場、住む場としてなぜ選択されているのかが読み取れるであろう。
	5		人口の増加を図るには、空地の活用だけでなく、空き家など既存ストックの活用も必要である。
	6	人口推計について	平成52年に37万人を確保する推計は、多くの再開発がみられた近年の動向を反映したものであり、この推計値を達成するにはそれ相応の努力が必要と考えられる。
	7		豊中市は恵まれた立地条件を保有していると考えられる。努力次第では平成52年に40万人を確保することも可能ではないかと思える。施策に対する真剣度合いをみせられるよう、努力する数値を示せるとよいのではないかと。
	8		推計において想定する理屈が重要である。南部地域の課題解決に重点があるように感じられるが、南部地域で空間的にどのぐらいを見込めるかの目標を設定し、従前にこだわらず、そのためにどのような政策を行っていくのかという示し方もできるのではないかと。
	9	人口の変化が将来に与える影響と課題について	南部地域は子どもの数が少ないので、小・中学校が統廃合されるとの話を以前聞いたことがあるが、具体的に大きな場所が空く予定であれば、その活用などを記入する方がよい。
	10		財政に関して、スチール缶、新聞、段ボールなどの資源ごみは有効な財源になると思うのだが、回収を市として取り組んではどうか。
	11		人口減少による資源ごみの影響なども考慮する方がよい。
	12		地域間格差の拡大が一番の問題だと思う。便利なところに人口が集中し、不便なところの人口が減る。豊中市はいろんな顔を持っている分、人口減少で格差が広がっていくことを課題としてとらえるべきである。
	13		失業率のグラフは、平成22年までのデータで上がってきているが、近年は下がっている印象がある。出来るだけ近年の動向を把握すべきだと思う。

項目	No.	内容	意見
豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略について	14	全体的な考え方について	戦略を考える上では、誰に対して価値を提供していくのかということが重要である。豊中のブランドをどのように魅せていくのか。市外への発信について、どこまでを政策としてうつのか。他の都市も同じように戦略を作成する中で、どのようにわかりやすく魅せていけるのかという視点が重要である。
	15		総合計画の重点施策の一部との位置づけとのことだが、総花的に事業があげられているように見える。重点的に取り組む事業が分かりやすく見えてくるとよい。
	16		総花的ではなく、他市と違う特徴をどのようにプロモーションするのが重要である。
	17		施策展開の方向性を「若い世代があつまり住み続けられるまちとよなか」と表現しているが、高齢者を排除しているととられかねない。また、その方向性と具体的な取り組みが十分に一致しているようにみえない。
	18		ファミリー層や若い世代を対象と考えるなら、住宅ストックが重要である。最近入ってきた層がどのような住まいに住む選択をしているかを把握して戦略を考える必要がある。また、教育環境の整備もファミリー層や若い世代の定着につながる。
	19		今後、国の交付金を財源として確保していくためには、国の方針に合致した戦略にしていくべきである。
	20		地域を示す際には、北部地域や中部地域などの表現ではなく、千里中央や空港などの駅名や拠点施設名を活用した記載にする方が、市外の方にもわかりやすくなるのではないかと。
	21		コストパフォーマンスが見えるように、経費や効果額を記載をすると、よりわかりやすくなるのではないかと。
	22		KPIも大事だが、想定した人口の将来展望が達成できたかどうか、最終的な評価として重要になってくる。その場合、豊中市に来てもらいたい具体的な人物像を想定し、5つの基本目標を市外の人に伝えることが重要だ。そのためにも、庁内で政策をまたがり、部局間をまたがって議論していくことが必要になってくると思う。
	23		豊中市においては、多世代をターゲットにしておく方が、人口減少を抑制し、しごとが増える可能性があると感じる。多面的、総合的な方が取り組みやすいと考えられる。
24	全体の構成から言えば、多世代をターゲットにしている表現でよい。		
25	将来の方向性を「まちの魅力にひとが集い、しごとが生まれ、未来につながる」とされており、「しごとが生まれ」と産業界についても進めていくことが示されたことは良いと思う。		

項目	No.	内容	意見
豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略について	26	基本目標全般について	5つの基本目標については、誰に向けられたものか、その主体を明確にしたほうがよい。
	27		5つの基本目標の文言は表現方法を統一するほうがよい。
	28	KPI全般について	基本目標と具体的な事業とKPIの関連性がわかるように文言等を整理する必要がある。
	29		KPIの目標に「維持」という表現が見られるが、「減少させない」などの前向きな表現にしてはどうか。
	30	基本目標（1）	「大阪国際空港を活かした都市間交流・連携の推進」とあるが、空港だけでなく、新大阪駅、中国自動車道、名神高速など各交通の大動脈が近くにあるという立地特性も取り上げるべきではないか。
	31		豊中市を、周辺都市を観光する方に「滞在」してもらい、「宿泊」してもらい場所とするための施策が必要ではないか。
	32		「大阪国際空港を活かした都市間交流・連携の推進」の施策として、「滞在型観光」をする外国人観光客をターゲットにした宿泊施設を誘致するような施策は考えられないか。
	33		行政計画としては、宿泊施設の誘致まで書き込めないかもしれないが、産業界や商工会など多様なプレイヤーと一緒にあれば検討できる可能性もあるように思う。
	34		「良好な住宅ストックを次世代につなぐ」におけるKPIとして「景観」だけでなく、空き家の活用やバリアフリー化の推進などの視点を入れたほうがよいのではないか。
	35		今後ますます高齢化が進んでいくことを考えると、職住近接であったり、買い物や通院に苦労しない状況をつくっていくことが重要になる。
	36		豊中市の良好な住環境は、敷地が広く、緑いっぱいのイメージ。そのような住宅地を維持するための建築協定の件数をKPIとして入れてはどうか。
	37		建築協定は更新されにくいので、最近の動向も踏まえ、景観協定なども考慮した方がよい。
	38		基本目標に「住む人を迎える」とあるが、住む人をお客さん扱いしているように感じる。「呼び込む」など、人を積極的に集める施策が感じられる表現の方がよい。
39	「幹線道路」は「国土幹線道路」の表現の方がよい。		

項目	No.	内容	意見
豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略について	40	基本目標（１）	KPIとして、空き家の割合を増加させないとなっているが、防犯の観点からも「良化」させる方向がよい。
	41		南部地域の利便性の高さを生かし、サービス付き高齢者向け住宅を整備し、高齢者の流出を抑止し、流入を増やすというのも可能性のひとつとして検討してはどうか。
	42		南部地域の空地に住宅（マンション）を建てて人を呼び込むには、南部地域の密集市街地等の住環境を改善していくことと合わせて考える必要がある。
	43	基本目標（２）	土地利用として、空港周辺の移転補償跡地はニーズが高い。アクセスが良いのでニーズもある。雇用が生まれるので、市としての具体的活用の動きがあるとよい。
	44		空港があることは市の強みだと思う。空港周辺の企業立地の促進は、もう少し踏み込んで国際的な企業立地と表現してもよいのではないかと。
	45	基本目標（３）	高齢者のパスがなくなって不便になったという声を聞く。出かけることでうまれる活力もあり、外出が少なくなったことによって、家にこもってしまう結果、要介護者が増えるということにもなるのではないかと。
	46		高齢者がいつまでも働いてもらえる場づくりということも、定着してもらう上では必要な視点である。
	47		具体施策の内容は地域がキーワードになっている。基本目標の中に「地域」という表現が入るともっとわかりやすい。
	48		基本目標に「心豊かに」とあるが、イメージする内容と具体的施策が合っていないように感じる。「心豊かに」はよい言葉であるが、内容に即したフレーズを検討してほしい。
	49	基本目標（４）	ワークライフバランスの実現において、待機児童ゼロにするために、どれくらいの保育所が必要かなどの見込みがわかるとよい。
	50		具体的な事業として、「保育所の増設」とするのではなく、既存施設の拡充も含めて対応することと考えると、「1,400人の定員増員の確保」等に表現を考えたほうがよい。
	51		「安心して産み育てられる」環境について、豊中市においては、子育て世代に「売り」になるものが思い浮かばない。例えば、子育て世帯に対する駐車場料金の減免や、子どもを連れて気軽に遊ぶお店やレジャースポットの誘致や利用補助、私立幼稚園の利用料金に対する保護者への補助の所得制限の緩和など、他市の事例を参考にもっと魅力的なわかりやすい具体例がほしい。
52	行政サービスの内容を他市と比較することにより、豊中市の特徴を見せることも必要かもしれない。		

項目	No.	内容	意見
豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略について	53	基本目標（４）	「社会生活を円滑に営む上での困難を有する子ども（家庭）への支援」において、親が働けない状況であれば、資金的に子育てが厳しくなる状況があるので、親が障害者の場合の子育て支援についても考えておくべきである。
	54		保育園と老人ホームを一体化して整備している自治体がある。子どもの成長や高齢者の健康にも効果的な面があるので、検討してほしい。
	55		結婚しない女性が増えたから女性就業率が上がっている側面がある。女性就業率を上げる目標と同時に、結婚を増やす視点も考慮してほしい。
	56	基本目標（５）	若者就業において、現在、発達障害の人や病気や怪我で働けなくなった人のサポートが手薄になっていることが課題となっている。この点を充実させればアピールポイントになるように思う。
豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進体制について	57		定住者を増やすための取組をすすめるにはマーケティングが必要だが、マーケティングはターゲットを決めて展開をするなど、まんべんなく情報をいきわたらせることもしない。ある意味で差別化していく。こうしたことは行政の苦手なところで、専門職員を雇う、あるいは、専門の組織をつくる、業務委託するなどをした方が良いのではないかと考える。
	58		推進体制における国の考え方は、検証機関の設置のみであるが、豊中市としての独自の推進体制については、今後検討してもらいたい。